



# だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば  
代表 桑波田 和子  
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1  
(一財)千葉県環境財団業務部  
環境活動支援課気付  
電話 043-246-2180  
FAX 043-246-6969

## 平成27年度もつながれ！ひろがれ！

環境パートナーシップちば 代表 桑波田 和子

本日は平成27年度総会にご出席いただきありがとうございます。ご来賓として、千葉県循環型社会推進課副課長の小泉様、上治様、千葉県環境財団の山口様に、ご多忙の中ご臨席いただきありがとうございます。

また、本日の総会会場は、300年の歴史を持つ「飯沼本家」様のご協力をいただき、歴史の重さを感じます「明治蔵」で開催させていただきました。その、(株)飯沼本家社長の飯沼喜市郎様もご臨席いただいております。

おかげさまで、環境パートナーシップちばは、26年度の事業を無事終え、27年度の歩みをスタートいたします。総会では、皆さまのご意見をいただき、今後の活動に活かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

平成26年度の主な事業の1つに、千葉県環境講座受託し、講座を実施しました。県内から参加される受講生の思い、講座開催の地域、事業者の環境への取り組み等を知ることができました。

2つめはエコメッセちばの開催です。昨年は12,000人の来場者があり、特に親子の参加が目立ちました。今年は20回目の開催となります。20年間、当会の先輩達も大いに支えてきていただき、今があります。



27年度の印旛沼に関しては、ナガエツルノゲイトウ等、各主体との連携・協働をより進めたいと思います。

また、当会所属の団体様へお伺いする機会を設けたいと思います。設立以来19年となり、組織等も検討する時期にさしかかりました。

27年度も、市民・企業・行政とのパートナーシップを推進し、「つながれ、ひろがれ」をモットーに活動していきますので、会員皆さまのご支援とご協力を是非よろしくお願いいたします。

## 「環境パートナーシップちば」定期総会来賓挨拶

千葉県 循環型社会推進課 副課長 小泉 直弘

ただいま御紹介を頂きました、千葉県 循環型社会推進課 副課長の小泉と申します。

本日は、総会にお招きいただきありがとうございます。今年度から、環境パートナーシップの関連業務については環境政策課から循環型社会推進課に移りましたので、よろしくお願いいたします。

「環境パートナーシップちば」の皆様におかれましては、日頃、地域の環境保全活動から環境学習、地球温暖化防止、資源循環型社会づくりなど、幅広い活動を実践する中、県の環境学習アドバイザーとしての活動や環境研究センター公開講座である環境講座の実施など、本県の環境行政の推進に御協力・御尽力をいただいておりますことに誠に感謝申し上げます。

また、本県の初秋を飾るイベントとして定着しましたエコメッセにつきまして、桑波田代表をは

じめ、会員の皆様の多大な御尽力をいただきましたことを改めて感謝申し上げます。

このように、様々な環境問題に取り組みられているなかで、昨年度は、印旛沼流域でのナガエツルノゲイトウの調査や学習会の実施など、御尽力をされていることに敬意を表する次第でございます。

このような環境保全活動等の取組を効果的に推進するためには、様々な主体が、それぞれ適切に役割を分担しつつ、対等の立場において相互に協力しながら環境保全活動等の取組を推進していくことが大切であり、近年、改正された環境教育等促進法でも、そのような取組を協働取組として規



定し、その必要性が明確になったところがございます。

このような状況の中、様々な団体をつなぎ、パートナーシップによる取組を実践されている皆様には大変重要な役割を果たしていただいております。今後さらに、その活動の輪が広がり、そして広がっていくことを、大いに期待しているところでございます。

県としても、引き続き皆様方をはじめ、様々な主体との連携・協働に努めてまいりたいと考えておりますので、今後とも御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

終わりに、「環境パートナーシップちば」の今後ますますの御発展と、会員の皆様の御健勝を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

## 平成27年度総会挨拶

一般財団法人千葉県環境財団 業務部 山口 幸一

ただいま、ご紹介に預かりました、千葉県環境財団の山口です。今日は、総会にお招きいただきまして誠にありがとうございます。

環境パートナーシップちば様は、平成9年の発足以来、事務局を当財団におき、財団とは切っても切れない関係でございます。

毎年、挨拶の際に申し上げていることですが、環パちば様は、ゆるくて、それでいて強いつながりで結びついた全国的にみても大変珍しい団体でございます。このつながりを持続していくために、桑波田代表ほか、会員の皆さまのご尽力は大変なものと思っております。

環パちば様におかれましては、「エコメッセちば」の開催運営や特定外来生物の「ナガエツルノ

ゲイトウ」の調査・抑制策、「環境講座」など、多岐にわたり活動されており、皆さま方の活動が持続可能な社会の実現に向け、今後さらに発展していくことを願っております。

当財団では、今年度も環境活動支援事業や温暖化防止活動など多くの事業を展開しておりますので、ご理解とご協力を、お願い申し上げます。

最後に、環境パートナーシップちばの皆さまのご発展と会員の皆さまのご健勝を祈念して、簡単ですが挨拶とさせていただきます。



## 総会報告

環境パートナーシップちばの平成27年度（第19回）総会が、4月25日（日）に酒々井町の飯沼本家の「まがり屋」で開催され、30名の参加を得ました。

来賓は千葉県環境生活部循環型社会推進課副課長小泉氏、同課主査上治氏、一般財団法人千葉県環境財団環境活動支援課山口氏で、小泉副課長、山口課長からご挨拶をいただきました。

そのあと、会場を提供して下さった飯沼本家社長の飯沼喜市郎氏からも、ご挨拶がありました。すなわち、会場の周辺は中世以来の地形で、里山風景そのものが残されている。「酒々井（しずい）」の語源は「出水（しゅっすい）」で、印旛沼（低湿地）と八街（台地）の間にあって、出水の多い土地であった。古くは千葉氏の本拠地の本佐倉城があり、北総の中心は酒々井であった。300年前に、集荷したコメの一部でお神酒を造ったことが飯沼本家の始まりであった。ぜひ文化としての日本酒に興味を持ってほしい、というようなとても興味深いお話でした。また、当家が所有する里山を、酒々井里山フォーラムと「里山活動協定」を結び、整備をしていただいているとのことでした。

そのあと、議長に内野英哲氏（ストップ地球温

暖化千葉推進会議）、書記に横山清美氏（当会アドバイザー）を選び、議案（1）から（7）の議案を審議し、すべて全会一致で承認されました。

今年の総会は、「まがり屋」という会場や同時開催のエコサロン（酒蔵見学、タケノコ掘り）という魅力にひかれて、JR総武本線の南酒々井駅という千葉市から遠い場所での開催にも関わらず、来賓も含めると30名という多くの方に出席していただきました。また、お二人の方が会場で新たに会員になって下さったのも嬉しいことでした。



（文責 小倉久子）



## 平成27年度事業計画について

平成27年度の主な活動は次のとおりに計画しています。

### 1. 情報活動

ホームページ（「環境パートナーシップちば」と「環境ひろば千葉」の2種類）、環バだより（隔月発行）、環バ通信（メールマガジン）を活用して情報を発信します。

### 2. 主体的活動

#### (1) 環境学習活動

環境学習プロジェクトチームを中心に、環境学習プログラム集の作成、千葉市環境教育講座（公民館講座）その他の出前講座を行います。今年度は、気候変動や放射能などに関する自主企画講演会も計画しています。これらの活動は、ESD（持続可能な発展のための教育）の視点を取り入れて企画・開催します。

#### (2) 印旛沼をきれいにする活動

印旛沼流域圏交流会に参画し、印旛沼流域水循環健全化計画第2期行動計画の策定、印旛沼流域環境・体験フェアの開催などへの、市民参画支援を行います。また、県や印旛沼流域市町・団体と

連携しながら、特定外来生物ナガエツルノゲイトウの調査及び啓発活動を行います。

#### (3) 環境パートナーシップ・エコサロン

今年度は、市民団体との交流、印旛沼流域水循環健全化第2期行動計画、ネオニコチノイド、農業問題、企業による環境学習の取り組み、外来生物問題などについて、6回のエコサロン開催を予定しています。

#### (4) エコメッセちばプロジェクト

エコメッセちば実行委員会に積極的に参画します。今年度は第20回の節目の年であり、9月23日（祝）に開催します。

### 3. ネットワーク活動

里山シンポジウム、ふなばし環境フェア、エコフェアいちばら、エコメッセ2015 in ちば、第5回Eポート千葉大会、印旛沼流域環境・体験フェアなどに参画します。

### 4. 運営委員会

毎月1回開催します。

（文責 小倉久子）

## 第64回 環境パートナーシップ エコサロン報告

平成27年4月25日（土）、酒々井町で300年の歴史をもつ酒造り酒屋(株)飯沼本家の施設をお借りして、総会終了後に同じ会場において31名が参加して、第64回エコサロンが次の内容で行われました。①(株)飯沼本家の酒蔵見学、②筍掘り体験、③里山活動地見学。

酒蔵見学は里山の自然に包まれた環境の中に建つ近代的な鉄筋3階建ての北総蔵が見学コースです。自社精米から始まり酵母の培養・製麹・仕込・しぼり・貯蔵・瓶詰等お酒のできるまでの工程を丁寧に説明していただきました。建物内はスリッパに履き替えて塵一つない清潔な見学路からは麹の香りが漂ってきて、利き酒心をあおり立てられました。生憎この生酒の利き酒体験は1週間前に終了とのこと、次のシーズンまでお預けです。

特製のカレーとお酒の昼食セットで満腹の後は、筍掘りと里山見学です。

(株)飯沼本家の広大な敷地の一面にある広い竹林が筍掘り会場。現地案内を兼ねた担当者から筍掘りのマナーとテクニックについて説明を受けました。参加者の中には初めて体験の方がチラホラ、最初はシャベルの扱い方に苦労をするものの、慣れるに従い大物をゲット、持ち帰り袋に入りきら

ず詰込でご苦労された様子。

隣接する里山も見学しました。酒々井里山フォーラムの保全活動地は(株)飯沼本家及び地元地権者と協定書を締結した山林と、飯沼社長提供の延長距離1.2kmに及ぶ谷津及びこれに沿う赤道を一体とした区域です。代表の渋谷会長は、この区域はホテルの群生地であり、貴重な野草や小鳥もたくさん生息して町のウォーキングコースにも指定されています。里山活動の目標である大切な自然を後世に継承することは大事なことですが、会の構成メンバー高齢化が悩みの種、この課題解決も重要であるとお話をされ、今日、どこのNPO団体も同じ難題を抱えていることを知りました。



（文責 萩原耕作）

# “エコメッセ2015 in ちば” 出展者募集中です！！

持続可能な社会の実現をメインテーマに千葉市の幕張新都心を舞台 1996 年から開催され、第20回となる千葉県最大の環境活動見本市です。環境保全の輪を広げること、異なる主体間のパートナーシップを推進することを目的として、テーマ「エコっておもしろい！」出展を募集しています。

- 名称 エコメッセ2015in ちば
- 会期 2015年9月23日(水・祝) 10:00~16:00
- 会場 幕張メッセ国際会議場
- 来場者数 15,000名(前回実績 12,000名)
- 主催 エコメッセちば実行委員会
- 募集内容



- 出展料：企業・行政—1区画(2m×2m)につき20,000円、  
市民活動団体・大学—1区画につき8,000円  
高校・学生団体—1区画まで無料、2区画目から8,000円/区画  
※電気を使用される出展者様は、配線工事等が必要ですので、事前にお申し込み下さい  
企業・行政4,000円、市民活動団体・大学・高校・学生団体2,000円のご負担を頂きます
- 応募方法と期間：申込みフォーム <http://www.ecomesse.com> から7月31日までにお申込下さい  
※早期出展申込み締め切り 6月30日(早割料金については、HPからご確認ください)
- 申込受付後2週間以内にご入金ください。(入金確認後正式受付になります)  
※9月1日以降のキャンセルは、キャンセル料(100%)が発生し返金は不可能です。

**お問い合わせ エコメッセちば実行委員会事務局**  
 電話 080-5374-0019 FAX 043-246-6969  
 〒260-0024 千葉市中央区中央港1-11-1 (一財)千葉県環境財団 業務部  
 環境活動支援課気付 エコメッセちば実行委員会事務局  
 E-mail info@ecomesse.com  
 ホームページ <http://www.ecomesse.com>

## 印旛沼の歴史・文化を学ぼう(その五)

### ～佐久知穴の湧水復活のロマン

佐久知穴(サキチアナ)の湧水は印旛沼の干拓により見かけ上埋没してしまっただが、この大量な湧水はどこにいったのであろうか。全て消滅したとは考えにくい。どこかに潜っているのではなかろうか。そうだとしたら、その湧水復活を今後の沼の水質改善策の一つに取り上げられないかと思う。

その答えの一つが白鳥孝治博士の「生きている印旛沼—民俗と自然—」(2006年初刊、斎書房出版)に、湧水復活のロマンとして示されている。

この論文では、まず佐久知穴の位置を推測する手掛かりとして、土地の古老の話を紹介している。「子どもの頃、爺さんから『沼のエビス岩の近くに佐久知穴があって、ここに吸い込まれると地下を通過して銚子まで流され、シブト(溺死体)になって浮かぶから気をつけろ』と聞かされていた。」

更に、茨城大学教授(当時)楡井氏によるエビス岩の成因説を紹介している。それは、長期に湧

出が続くと石灰質の塊ができ、それが湧水が吹き上げた砂を凝固させ岩塊を造るというものだ。白鳥博士はこれ以上のことは言及していないが、この説をもとに、現地でその岩を探し一応の見当をつけた人がいる。その人が書いた記事が、「印旛沼の大湧水 佐久知穴」(『いんば沼』(第16号)(財)印旛沼環境基金 1996年)だ。この記事によると、佐久知穴は下図の場所であるが、これを特定することは簡単ではなさそうである。

さて、湧水復活の可能性であるが、白鳥博士の見解を以下に掲げる。

印旛沼周辺の地下水位は、おおよそ1.6~2.2m





(YP)で、沼の管理水位 2.2~2.5mより低いため、この管理水位を変えない限り湧水は出現しないと言える。では、湧水復活目的で沼の底（現在 1.0~0.7m）を 1m 程掘り下げ、同時に管理水位も 1m 程下げの方法はどうであろうか。これに加え、更に、酒直水門と印旛水門を開放すれば、印旛沼の水位は利根川の常時水位 0.9~1.1m とほ

ぼ同じとなり、佐久知穴湧水が生じた時代と同じ水位の条件となる。

この発想は印旛沼水循環健全化会議でも検討しているが、様々な利水者の合意を得ることがむずかしく、湧水復活はロマンの域を出ないようだ。

(文責 牧内弘明)

## 里山里海と生物多様性と博物館との 30 年間

元千葉県生物多様性センター副技監（併任）県立中央博物館副館長 中村俊彦

今年の3月22日（日）に里山シンポジウム実行委員会主催のシンポジウム「里山里海活動と博物館」が県立中央博物館で開催された。そのなかで私は「里山里海と生物多様性と博物館」の講演をさせていただいた。このシンポジウムは、里山シンポジウム実行委員会副代表の栗原裕治さんを中心に市民・NPOの仲間が私の定年退職も加味し企画して下さった会で、私としては、博物館の建設・運営から里山里海そして生物多様性保全の取組に関する経験を振り返り、さらに自身の今後についての想いを述べさせていただくこの上ない機会となった。

私は、1985年4月当時の千葉県教育庁文化課博物館準備室で中央博物館建設の担当として職を得た。そして当時、中央博物館の設置準備委員長でその後中央博物館初代館長をされた沼田眞先生の千葉の自然と文化への並々ならないおもしろい情熱に、私は大きな感動と夢とを抱かせてもらった。

博物館の準備室時代、私は主に本館の生物関係の展示の設計とともに生態園、さらに山と海の二つの分館の基本構想づくりを担当した。1989（平成元）年2月の本館開館後も主に生態園の整備・運営や山の博物館の設置準備を担当したが、2002年6月、千葉県の博物館は激震に見舞われた。県財政の困窮のため「県立博物館の統廃合へ」が打ち出され、新聞報道には中央博物館の大きな写真が掲載された。これは博物館職員のみならず博物館に期待を寄せてきた県民の方々の間にも大きな動揺が広がった。そして同年11月、県民有志の方々により、シンポジウム「これからの博物館を考える」が中央博物館で開催された。このシンポジウムでの議論と多くの県民からのアンケートの結果に基づき、2003年3月知事へ「千葉県立博物館構想に関する県民提言」の提言書が提出された。その4月には「千葉県立博物館構想に関する県民提言報告書」が完成し、報告会も開催された。

博物館と県民との連携は、共同のシンポジウム開催とその結果をしっかりとまとめた報告書の発行

によりその連携内容も次第に充実に進化した。

2007年には博物館と県民が協働し開催した「千葉の干潟」展、また2009年には企画展「生物多様性1：生命のにぎわいとつながり『虫、魚、鳥、草、木、人』」が開催された。

県立博物館の統廃合が行われ、2006年中央博物館には大利根分館と大多喜城分館が誕生したが、山の博物館の設置準備に関しては大幅な変更が求められた。その準備のための事前事業として2003年から開始された「房総の山のフィールド・ミュージアム」活動は、清和県民の森とその周辺域の自然や文化そのものを資料かつ展示として展開された。このフィールド・ミュージアム事業は、地域住民と協働する博物館の新たな方向性を示すものとして高く評価され注目の的となった。

2005年には県文化財課は「千葉フィールドミュージアム事業」を立ち上げ、山・川・海のフィールドミュージアムを開始した。そして2013年にはシンポジウム「フィールドミュージアム振り返りシンポジウム：自然と文化を守り育む、まちづくりを考える」を県民グループのフィールドミュージアム・三番瀬の会が中心となって開催するとともに、その結果は報告書にまとめられた。このような中央博物館を軸に展開されてきた千葉県のフィールドミュージアムの活動は、現在、文科省社会教育課が推進する地域の振興や課題解決を住民と一緒に取り組む新たな博物館のモデル的存在となっている。

県内の豊かな自然環境の一つとして「谷津田」があげられるが、その自然と文化については中央



博物館の常設展示でも大きく紹介されている。しかし1990年代からその環境は開発や耕作放棄等で大きく損なわれる状況になった。1999年この実態を調べつつ保全を目指した「ちば・谷津田フォーラム」が設立され、私はその代表として現在に至っている。

この谷津田の活動は、その後2003年に千葉県で開催された「第54回全国植樹祭」を契機に制定された「千葉県里山条例」により、森林から田畑・川沼、集落も含めた里山の保全の活動に拡大した。2004年から始まった「里山シンポジウム」は、県民有志の「里山シンポジウム実行委員会」が企画・運営し、多様なテーマの分科会を含み県内各地で開催されてきた。今年の第13回は「里山と資源循環」をテーマに山武市で開催された。このような谷津田・里山保全の流れは市町村独自の事業としても拡大している。

谷津田・里山や干潟の調査及びその保全活動は、我が国初の生物多様性地域戦略を目指す取組に連動した。2006年の生物多様性戦略のタウンミーティングを経て、2007年の県民会議による提言

を受けた千葉県は2008年3月、初の地域戦略「生物多様性ちば県戦略」を策定した。この戦略策定により自然保護行政と中央博物館とが一体となった「千葉県生物多様性センター」が設置された。

千葉県の戦略づくりは、日本各地の都道府県の戦略づくりの手本として注目されるとともに市町村レベルの地域戦略づくりに広がりつつある。私が策定委員長として2015年に完成した「いすみ生物多様性戦略」では、「生物多様性豊かな地域づくり、里山里海を守り伝える人づくり」を理念に、市民から寄せられた全ての意見を盛り込んだ項目立による事業策定がなされ、その中には「生物多様性いすみステーション(仮称)」の設置も含まれた。

私は現在、千葉県立中央博物館館友として委嘱され、(公財)日本自然保護協会や(NPO)千葉自然学校、ちば・谷津田フォーラム、また学術面では東京湾学会や東京大学農学部等とのつながりのなかで里山里海と生物多様性と博物館にかかわる研究や保全の活動を続けさせてもらっている。今後とも皆さんのお仲間の一人として、変わらぬご指導・ご鞭撻をいただければ幸いです。

## 『第12回里山シンポジウム in 山武』を終えて

里山シンポジウム実行委員会代表 並木秀幸

2015年5月17日に、山武市立大富小学校で、第12回里山シンポジウム in 山武が開催され、400名を超える来場がありました。

午前中は4つの分科会、①サンプスギの住まいづくりの今とこれから(石井充さん)、②山武市ならではの資源循環を目指した、新しい農業へ(阿部順さん)、③里山資源を活かす循環ライフのすすめ(中村彰宏さん)、④子どもと共に味わう里山の自然と恵み(渡辺章さん)が行われました。林業、農業、暮らし、教育の各分野において、山武市の里山資源を活かした先進的な取り組みの発表や座談会が行われました。

午後の全体会においては、スタジオジブリの高畑勲氏、ピアニストの西村由紀江氏、山武市長・椎名千収氏らを招き、フレデリックバック氏のアニメーション映画「木を植えた男」に込められたメッセージを軸に、資源循環の街づくりについて考えました。

「木を植えた男」は、一人の男が自分にできることをひたすら行い続けた結果、不毛の地に美しい森を蘇らせたという荒廃からの復活の物語です。そこに込められているのは、自ら選択し、選択したことを無償の愛をもってやり抜くことで、人間は神にも匹敵するような偉業が可能だという希望です。

エネルギーは使えばなくなります。資源を循環さ

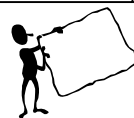
せるためには、使った分のエネルギーを補充、若しくは復活させる原動力が必要です。その原動力とは何でしょうか。化石燃料や原子力でしょうか。その答えは、分科会の中に見ることができたように思います。分科会で発表されたのは、山武市にあるものを有効に活用して、魅力ある生活を築こうとする取り組みの数々でした。こうした善意ある市民活動の一つ一つが、荒地を森へと変えていく樹木の一本一本となるのではないのでしょうか。

本シンポジウムには子ども連れの若い世代の方々の来場も目立ちました。会場に足を運ばれた皆さんの心に何かが残る、それが行動という形に変われることを望みます。「木を植える心」が皆さんに届いたのならば、それが本シンポジウムの成果であると考えます。





県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 27 —  
おききました！ この人・この団体  
SaToYaMa よくし隊



### SaToYaMa よくし隊 隊長 鈴木幹夫

SaToYaMa よくし隊は、里山をよみがえらせて、明日につなげたい（よくしたい）気持ちを表現しました。

フィールドは、市原市姉崎地区の不入斗（いりやまず）です。姉ヶ崎駅から車で光風台方面に向かい、有秋東小学校前の信号を左折し100mで「竹・いろいろの里」の看板が目印です。

荒れた山をなんとかしたい地主さんと昔の山に取り戻したい定年時代人が市原市主催環境大学へ受講する中で知り合い、平成17年に里山（竹藪）保全活動が始まりました。

活動開始に必要な金は、市原市の市民活動支援補助金で、人は新聞折り込みと口コミで募集、物は山仕事で最低限の道具を準備しました。活動は、環境大学で学んだことが一つ一つ試され、どの竹をどのようにして切り、枝をどのように処理するか、間伐竹はどのようにするかなど難問を地道にコツコツ対処しました。中でも竹をただ腐らせ土に戻すのはモッタナイの発想から「竹炭づくり」に挑戦。一斗缶を使って炭焼きの原理を実地検証→ドラム缶で検証→地面に穴を掘る「伏せ焼き」に挑戦しました。

大量に焼くときは「伏せ焼き窯」、炭焼き出前をするときは、一斗缶を（ペール缶）と二通りを取り込み、本格的に製作しました。製作は、現役時代の、設計図面起こし、資材調達、加工、土木建築など多彩な技術を結集し平成18年に完成しました。

その後、囲炉裏やピザ窯、竹酢液採取装置、竹酢液蒸留装置、竹の油抜きガマ、もみ殻くん炭焼き装置などを独自に開発製作しました。現在はその設備を使い、間伐材を有効に活用しています。回を重ねることで品質的にも向上しています。

このように整備が進むと、市街地密着型里山保全の市原モデルとして市民に知っていただくことも重要と思い、市原市のエコフェアやエコメッセなどに出かけて広報しています。また同じ活動をしている団体との連携も大事なので、里山センターや市原市ボランティア連絡協議会に加入しました。今では、役員や実行委員を派遣し活躍するまで成長しました。

里山活動をしていると、煙の問題や伐採音など近隣住民にとり苦情となりやすいことがあります。

そこで私達と住民が互いに意思疎通する中で解決するために、春には「たけのこパーティー」、秋には「いも（里芋）煮会」をきれいになった里山で開催し、関係者を招待したり住民に呼びかけ、150人規模で開催しています。これらイベントで使われる材料は、肉や調味料以外全て自分たちで作った野菜類や春の山野草です。

里山保全に必要なチェーンソーや刈り払い機・ノコギリ・ナタなどは、市原市の里山保全に特化した補助金で賄えるので本当にありがたいです。しかしこれでも足りませんので、竹の有効利用とモノづくりの楽しみから竹細工品をつくり販売しています。目標は、補助金に頼らない「自立した里山保全活動団体となることです」。

また、里山を将来にわたり保全していくためには、地域の小学校・幼稚園・公民館などに呼びかけます。有秋東小学校5～6年生の総合的な学習年8回の受入れ、第二姉ヶ崎幼稚園の里山遠足・第二っ子まつり、有秋公民館の親子でアウトドア・ミニ門松づくり講座・地域デビュー里山体験講座、コスモ石油、千葉自然学校、千葉県立君津亀山少年自然の家、などと連携しています。

最後に、竹は他の植物を駆逐しいろんな害が出ています。互いの植物動物・人間が程良い住み分けができるように、人間がコントロールする以外に解決の道はありません。

私達は、今まで経験した全てを公開し協力を惜しみません。10～30人程度の小集団が里山あるところ全てに結成されることを祈っています。

SaToYaMa よくし隊

市原市姉崎 2267-3 0436-62-4121

omks071226@alto.ocn.ne.jp



SaToYaMa よくし隊のフィールド正面入口と活動の様子

# 運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを  
info@kanpachiba.com にお知らせください。  
(広報部)

## 4月運営委員会

日時 4月10日(金) 18:00~20:55  
場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・だより 102号印刷・発送
- ・エコメッセちば実行委員会総会(4/9)
- ・会計監査報告(4/10)
- ・その他

### 【協議】

- ・だより 103号
- ・総会準備
- ・その他

## 5月運営委員会

日時 5月13日(水) 18:00~20:55  
場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・総会開催(4/25 30名出席 議案はすべて承認)
- ・エコサロン(4/25 31名出席 飯沼本家)
- ・千葉市環境教育プログラム提出
- ・印旛沼流域環境体験フェア 10/25・26開催

### 【協議】

- ・だより 103号
- ・エコフェアいちはら出展内容について
- ・エコメッセ2015inちば出展内容について
- ・事務局/事業計画の追加修正、規約の見直し検討
- ・環境学習プロジェクト、環境講座、エコサロン  
印旛沼をきれいにする活動について

## お知らせ

### ◆6月エコサロン◆

日時：6月29日(月) 18:30~20:30  
会場：きぼーる(千葉市) 会議室4  
参加費：無料  
定員：36名  
話題提供者：千葉県河川環境課  
話題：印旛沼第2期行動計画意見交換  
主催：環境パートナーシップちば

### ◆7月エコサロン◆

日時：7月8日(水) 15:30~17:00  
会場：きぼーる(千葉市) 会議室4  
参加費：無料  
定員：24名(当会会員限定)  
話題提供者：千葉県県民生活・文化課  
話題：「NPO法人格」について  
主催：環境パートナーシップちば

★参加申し込み★E-mail: info@kanpachiba.com  
電話：090-8116-4633 (環パちば携帯)

### ♠第18回ふなばし環境フェア♠

日時：6月6日(土) 10:00~16:00  
会場：船橋市中央公民館 (雨天決行)  
テーマ：未来へ残そう！  
ふるさとふなばし自然の宝庫  
参加費：無料  
主催：船橋市環境フェア実行委員会  
問い合わせ：船橋市環境フェア実行委員会事務局  
(船橋環境政策課内)  
TEL：047-436-245

### ♠♠エコフェアいちはら♠♠

日時：6月13日(土) 10:00~15:00  
会場：市原市役所駐車場  
市民広場及び消防局講堂  
参加費：無料  
主催：エコフェアいちはら実行委員会・市原市  
問い合わせ：市原市環境管理課  
TEL：0436-23-9867

※上記フェアに、当会も出展しています

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団

業務部環境活動支援課 気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

Eメール: info@kanpachiba.com

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

## <環境パートナーシップちば>

### 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)  
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		